

農業共済新聞 千葉版

掲載号	6 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 大内 昭彦
題名	飼料用米品種「べこあおば」の特徴と穂肥施用による増収技術	
備考	【図説明】 穂肥施用の有無と飼料用米の収量（2009年） 【写真説明】 多肥栽培でも倒伏しない「べこあおば」	

【本文】

「べこあおば」は、独立行政法人東北農業研究センターで「オオチカラ」と「西海 203号」を交配して育成された多収性の飼料用米専用品種です。千粒重が約 30g と大粒で、玄米の外観品質が劣ることから、主食用品種との識別が容易です。また、「コシヒカリ」に引き続いて収穫適期となるため、千葉県の水田条件に適合した品種です。さらに、短稈で倒れにくい（写真）ので家畜ふん堆肥を積極的に活用できるほか、主食用品種の収穫や調製に使用している作業機械をそのまま利用できます。

下図は、10アール当たり牛ふん堆肥 2t と基肥窒素 12kg を施用した砂壌土の水田で、「べこあおば」と「ちば 28 号」を栽培し、穂肥施用の有無が収量に及ぼす影響を調べた結果です。「べこあおば」は穂肥の施用によって 10アール当たり約 100kg 増収し、837kg の粗玄米重が得られ、「ちば 28 号」に比べて穂肥施用による増収効果が大きく現れました。

このように、「べこあおば」の多収性を十分に発揮させるためには穂肥の施用が重要です。出穂の 25～18 日前に、窒素成分で 10アール当たり 3～4kg を施用するのが増収のポイントです。

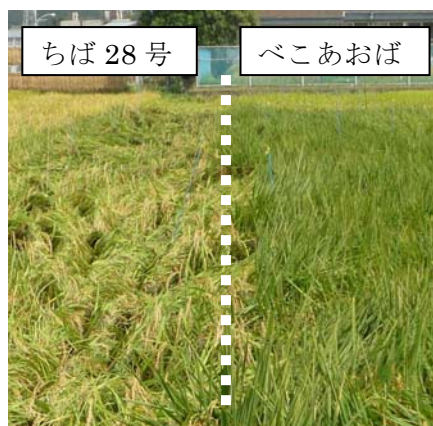
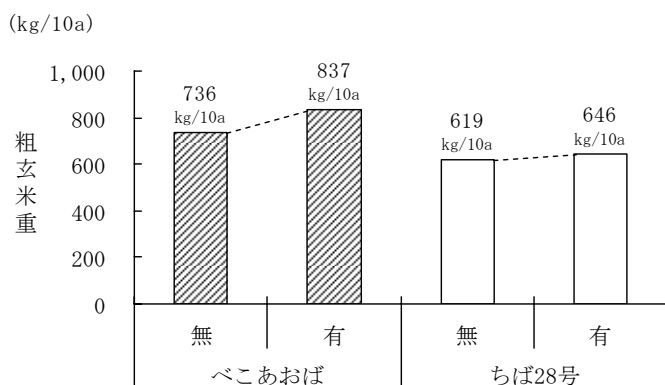


図 穂肥施用の有無と飼料用米の収量（2009年）

写真 多肥栽培でも倒伏しない「べこあおば」